

# 大和小学校

研究主題 「学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成」  
副題 一個が生かされ 基礎学力の定着をめざした授業づくり

## I 研究の内容

### 1 研究の具体的内容と方法

#### (1) 児童の実態把握

ア学力調査 国語と算数の前年度の学習の定着を客観的テストで調査する。  
イ児童アンケートにより児童の生活および学習習慣の実態を把握する。

#### (2) 理論研究・学習会

ア講師を招聘しての学習会の実施  
イ各種研修会への参加と環流報告

#### (3) 個に応じた算数科の指導の工夫

ア児童の実態に即した指導の工夫を行う。  
イ机間指導, 机間支援を工夫する。  
ウ発達段階に応じた自己評価の工夫  
エ授業研究と一人一実践の授業公開を行う。

#### (4) 学習環境を整える手立て工夫

ア発達段階に応じた学習規律の定着をめざして, 「大和小の学習のやくそく」の改善を行う。  
イ学習の振り返りができるような教室掲示の工夫(算数コーナーの充実)を行う。  
ウ学習内容を振り返るノート指導の充実を図る。  
エ朝の活動「自己学習」の有効的な活用を工夫する。  
オ家庭学習の重要性を保護者へ啓蒙し, 連携して徹底を図る。

## II 研究実践

### 1 理論研究

#### (1) 学習会

ア「算数科の指導の工夫」 講師: 義務教育課 指導主事 齊藤 功先生  
講師: 峡東教育事務所 主幹指導主事 原 喜雄先生

### 2 研究授業

#### (1) 第1学年 算数科「どちらがながい」 授業者 青木 恵教諭

講師: 義務教育課 指導主事 齊藤 功先生  
講師: 峡東教育事務所 指導主事 小林 俊彦先生

十字に固定された青い棒と白い棒のどちらが長いかを考えさせる授業を行った。算数的活動を重視し, 子ども達にじっくり考えさせることができた。具体物を使った間接比較や任意単位の測定により, グループで協力して取り組んでいた。グループ学習で何を学ばせたいのか目当てを決めて行うことが大切である。

#### (2) 第5学年 算数科「面積の求め方を考えよう」 授業者 清水 誠治教諭

講師: 峡東教育事務所 指導主事 小林 俊彦先生

既習の図形に帰着して, 台形の面積を求める授業を行った。2つの台形を組み合わせて平行四辺形にしたり, 分割して平行四辺形や長方形を作ったり, 三角形を2つと長方形に分割したりして求めていた。机間支援を行い, ヒントカー

ドを参考にして取り組む子もいた。面積も1つの式にまとめることが必要である。  
筋道を立てて考えることが大切である。

### 3 授業実践（一人一実践）

・第2学年	算数科「形に名前をつけよう」	岩下 亜希子	教諭
・第3学年	算数科「□を使った式」	小石澤 淳子	教諭
・第4学年	算数科「広さを調べよう」	滝島 正彦	教諭
・第6学年	算数科「変わり方を調べよう」	萩原 昇	教諭
・さくら学級	算数科「広さを調べよう」「形に名前をつけよう」	松井 仁美	教諭
・りんどう学級	算数科「広さを調べよう」	武井 敏江	教諭
・第4学年	理科「もののあたたまりかた」	阪本 辰彦	教諭

## III 成果と課題

### 1 成果

- (1) 研究の柱を「①基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。②既習事項を活用して考え、判断し、表現するなど算数的活動の充実を図る。③机間支援を工夫し、個別指導の充実を図る。」の3本を立て、研究の方向性をより明確化し実践することができた。
- (2) 全学年で「生活ノート」に取り組み、児童の実態を把握することができ、よりよい生活習慣を確立するための手立てとなった。
- (3) マス計算を授業の最初に継続して取り組むことができ、集中力と計算力の定着が図れ、有効な手立てとなった。
- (4) 学力調査(CRT)や学習・生活実態アンケート調査を4月中に実施し、早期に児童の実態を把握することができ、どこの学習が苦手なのかなどの傾向が分かり有効であった。
- (5) 一人一実践を見合う中で、さまざまな指導の工夫を学習することができ、勉強になった。理論研究と2回の授業研究に計5名の指導主事が来校し、算数科の指導について学習する機会がえられ実のある研究会となり、その後の授業研究や授業実践に大変役立った。今後も児童の実態に基づき、理論研究を行い、授業の中で検証していくことが必要である。
- (6) 算数コーナーを設置し、視覚的にも見やすく、かつわかりやすい掲示を心がけたことにより、児童がいつでも学習の振り返りができよかった。
- (7) 低学年ではミニボードを使った授業を行った。子どもたちは、熱心に書いたり、発表したりして、意見を発表するのに役立った。また、考えごとに分類する際に簡単に移動でき、子どもの思考を深めるのに有効だった。各教科で利用でき有効に活用できた。

### 2 課題

- (1) 基礎学力を定着させるためには、授業は基より、家庭学習の習慣化が必要である。生活ノートを活用し、家庭と連携して一緒に取り組んでいくことが大切である。
- (2) 大分学習規律が定着してきたが、まだまだ継続して取り組む必要がある。教師や友達の話をしっかり聞く態度が不十分である。
- (3) 算数などの教科を絞って指導法の工夫をすると同時に、教師の力量を高めるための研修にも今年度以上に力を入れていきたい。
- (4) 来年度も、本年度の研究の成果と課題から、子どもの実態を踏まえ、どんな子ども像を目指してどんな手立てを行っていくか共通認識してさらに研究に取り組んでいく必要がある。また、学習の基盤となる学習規律をしっかり身に付けさせ、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させていく学習集団・学級づくりに重点をおきながら、「思考力・判断力・表現力の育成」を目指した研究を進めていく必要があるだろう。

(研究主任 阪本 辰彦)